

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970200125
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム山梨小原西
所在地	〒 405-0006 山梨県山梨市小原西641-7 電話番号 0553-21-8220

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年7月31日	評価確定日	平成20年8月25日

【情報提供票より】平成20年7月6日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	7人	常勤	6人	非常勤	1人	常勤換算	5.25人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(200,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 0 円			

(4) 利用者の概要 平成20年7月6日 現在

利用者人数	18 人	男性	6 人	女性	12 人
要介護1	3 人	要介護2	6 人		
要介護3	4 人	要介護4	5 人		
要介護5	0 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 84 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山梨厚生病院・加納岩総合病院・飯島医院・藤原歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年8月6日

桃やぶどうの果樹畑と住宅地に囲まれた静かな環境の中に2階建てのグループホームがある。ホームの職員は毎日朝礼で理念を唱和し、快適で穏やかなシルバーライフをサポートするため「今」この人には何が必要なのかを考え、そしてその人の「今」を見つめ、心をこめたサービスに取り組んでいる。一人ひとりの趣味や感心ごとなどの希望を叶えるよう関係者とも連携をとり行っている。当グループホームは全国組織として展開され、質の高い介護サービスを提供するために定期的に利用者・家族の方々にアンケートを行い、その結果をフィードバックし業務に生かしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とそれ後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 鍵をかけないケアの実践については、利用者の安全を確保し検討することとなっていたが、利用者の所在確認が十分できないこともあり玄関の施錠と居室の窓も全開できていない。鍵をかけることの弊害は理解している。今後所在確認の意識を徹底し地域の協力を得て施錠しない方向で取り組んでいくこと。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 管理者及びユニットリーダーは、自己評価及び外部評価の有効性は理解している。職員全員で自己評価を行い課題・問題点を洗い出し、共有し改善計画を立て計画的に取り組んでいくこと。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2か月に1回行われている。ホームからの報告にとどまらず、メンバーからの質問やアドバイスにより積極的な話し合いが行われている。七夕飾りの行事には、竹の提供をしていただき楽しみを共にした。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 相談苦情窓口一覧表及び意見箱はホーム内の目立つ所に掲示・設置してある。利用者や家族等には丁寧な態度で接している。利用者の状況は定期的に報告しているが面会に行った時に利用者が買い物等で不在であったり、職員の異動が知らされていないことからホーム便りに掲載するなど必要な情報は随時報告していくこと。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 夏祭りなど地区の行事に参加し、地元住民との交流を大切にしている。ホームの納涼祭へも参加を呼びかけるなど双方向関係のつながりをもつよう努めている。

2. 調査報告書

事業所名：愛の家グループホーム山梨小原西

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本社の理念をホームの理念として掲げ、毎日朝礼で唱和を行い意識の向上に務めている。ホーム独自の理念を設定し、利用者の「今」を見つめ快適なシルバーライフに向けての理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアに理念が掲示されている。毎日朝礼で管理者と職員は唱和を行い、日々の業務を振り返る機会となり意欲にもつながっている。勤務体制によりフロアで朝礼を行うこともあり、理念の実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校の運動会の見学やお祭りへの参加、ホームの納涼祭等の行事への呼びかけなど相互に交流することに努め、地域とのお付き合いを大切にしている。近隣の人たちと気軽に挨拶をかわしたり話したりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の有効性について管理者とユニットリーダーは理解しているが、職員全員が理解しているとはいえない。職員会議等では話し合っているが、改善計画は作成されていない。	○	職員全員で自己評価を行い課題や問題点などを共有し、改善点として明らかになった事項については、改善計画を立て計画な取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行われている。利用者の様子や行事等についてホームからの一方的な報告にとどまらず、メンバーからの質問や情報提供など、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者等と関わることで各種相談等が行いやすい関係にある。社会福祉協議会や働く婦人の家等の関係団体からの情報提供により、車いすの借用や習字の習い事に参加するなど利用者の生活が豊かになるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の日常の様子や金銭管理については定期的に報告を行っている。しかし家族等にホームの月間・週間予定表の周知が十分でなく、面会に来た時に利用者が外出していたことがあった。また職員の異動についても家族等への報告が滞っていた。	○	ホーム便りに行事や職員の異動については、写真入りで随時掲載し報告していく予定である。今後も家族等への情報提供はきめ細かく行うよう期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情窓口一覧表や意見箱を利用者・家族等が利用しやすい場所に掲示・設置してある。年1回無記名式のアンケートを家族等へ配布し意見や苦情の把握に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の様子を見極めながら、早めに異動について伝えたり必要に応じて新任職員を早めに配置し利用者の精神面の配慮が行われている。また、異動や離職を最小限に抑えるよう、働きやすい職場づくりに向けてアンケートなど行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社の研修やリーダー研修は管理者及びフロアリーダーが出席し研修内容を全職員に報告し勉強会を行っている。各種資格取得にはホームより助成もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会との定期的な交流や情報交換は行われている。市内3か所のグループホームで認知症よろず相談所を8月1日から開設する。地域の同業者との職員同士の交流はない。	○	地域の同業者と職員同士の交流の機会を持ちサービスの質の向上を目指していくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を繰り返し行い本人が納得した上で入居してもらっている。必要に応じ職員の家庭訪問により馴染みの関係づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	少人数での外出やお茶の時間など日々の楽しみごとを利用者と共に共通の時間をつくり楽しんでいる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の居室担当を決め、本人の希望や意向の把握に努め、きめ細やかなサービスを心がけている。個人の希望により外部のマッサージサービスを受けている利用者もいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がよりよく暮らすための介護計画はホーム内のスタッフのみにより作成されている。	○	介護計画の作成には、本人・家族・医療関係者等と話し合い、関係者の意見やアイデアを反映した偏りのない介護計画を作成されることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々変化していく状態の把握に取り組み、3か月に1度の見直しを行っている。病院からの退院時には現状に即したサービスを行っている。書面上の変更が後付けになる時もある。	○	利用者の状態の変化により介護計画の変更が生じた時は必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画作成のもと介護サービスが行われることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況・要望にできる限り対応する努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により往診医の紹介を行い、かかりつけ医として対応している。かかりつけ医への通院は原則家族対応で行ってもらっているが、不可能な場合は職員が付き添い、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の健康状態を家族に報告し、早い段階から今後の方針について話し合いを持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の中で態度や言葉かけについては職員同士で確認し注意しあっている。個人情報については、守秘義務の重要性を周知徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者のペースや希望に合わせた支援を行っている。自分の意思を示さない利用者には意向を汲みとる職員の気づく力を養う努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは、本社から指定されたものが用意されているが、利用者の好みや地域の食材を取り入れる工夫をしている。月に1度、昼食づくりを行い利用者の状態に合わせ調理から片付けまで行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきの入浴となっているが、本人の希望や失禁時には随時可能であり、いつでも入浴できる体制をとっている。日帰り温泉に出かけるなど入浴を楽しめる支援も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人が何ができるかを見極め、本人の意向に合わせて支援している。掃除、洗濯物干し、洗濯物の片付け、買い物の付き添いや絵画制作、習字など趣味への協力を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に個人にあわせた散歩コースやドライブ、月の行事として買い物日、外食日などがある。また、個人の外出にも可能な限り職員が付き添う支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は鍵をかける事の弊害は理解しているが、見当識に問題のある方が多いため玄関は施錠されている。また居室の窓も全開できない。職員全員が今後の課題として受けとめ、施錠しない方向を模索している。	○	前回の外部評価で改善事項であったが改善されていない。利用者の安全を確保しながら、玄関の鍵、居室の窓の開放について、日中鍵をかけないで済む工夫について引き続き取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行っている。非常用食品は備蓄してある。地域との協力体制は構築中である。	○	災害対策について住民の協力が得られるよう運営推進会議の検討事項とし話し合うことが必要である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人チェック票により食事摂取量、水分量の確認を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえるような装飾を心がけている。装飾は手作りで温かい家庭の雰囲気が出せるよう工夫されている。共有空間は十分な広さがあり、陽当たり、風通しもよく不快な臭いもない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に設置してあるエアコン・洗面台以外は全て本人や家族と相談して、使い慣れたものや馴染みの物を持ち込んで居心地よく過ごせるようにしている。		